

## 間歇性跛行を主訴とする膝窩動脈外膜囊腫の一例

◎開作 友美<sup>1)</sup>、竹村 利恵<sup>1)</sup>、山口 敬子<sup>1)</sup>、中田 恵美子<sup>1)</sup>、岡山 幸成<sup>1)</sup>、胡内 久美子<sup>1)</sup>、中村 文彦<sup>1)</sup>  
地方独立行政法人奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター<sup>1)</sup>

[はじめに]閉塞性動脈疾患のスクリーニングとしてABI(足関節・上腕血圧比)や超音波検査が非侵襲的検査法として注目されている。今回稀な疾患である膝窩動脈外膜囊腫の一例を経験したので検査所見を交えて報告する。

[症例]60歳代 男性

[既往歴]高血圧 糖尿病

[現病歴]3ヶ月前から100m歩行での間歇性跛行を自覚し、近医を受診された。ASO(閉塞性動脈硬化症)疑いで当院を紹介された。

[身体的所見]左右足背動脈 触知可能

[血液所見]RBC $417 \times 10^4/\mu\text{l}$ ,Hgb $12.8 \text{ g/dl}$ ,PLT $26.6 \times 10^4/\mu\text{l}$ ,血糖 $299 \text{ mg/dl}$  血糖値以外特に異常なし。

[ABI]右上腕血圧 $147 \text{ mmHg}$ ,左上腕血圧 $143 \text{ mmHg}$ ,右足首血圧 $57 \text{ mmHg}$ ,左足首血圧 $177 \text{ mmHg}$ ,右ABI:0.39 左ABI:1.20で足首血圧は左側に比べて有意に低値を示した。

右足脈波の波形は波高の低下もなくupstroketime,%MAPともに正常範囲。

[下肢動脈エコー]右膝窩動脈を圧迫する嚢胞性腫瘍を認め

た。

[MRI]右膝窩動脈外膜囊腫を疑う。

[経過と考察]来院時の間歇性跛行とABI検査結果よりASOを疑った。しかし、下肢動脈超音波検査の結果では動脈硬化がなくASOは否定的であった。膝窩に嚢胞性腫瘍を認めた。ベーカー嚢胞を疑ったが、動脈を圧迫する嚢胞ではなく動脈に接する嚢胞性腫瘍と考えた。

術前(2017/10/17)のABI 右:1.13 左:1.12と来院時と術前で右ABIの値が明らかに異なっており、膝窩動脈外膜囊腫の構造上において特有に起こるものとする。膝窩動脈切除、自家動脈置換術を施行した。術後、間歇性跛行はなくなり経過良好であったが、今年の6月に下肢動脈エコーにて再発を認めたため今後フォローしていく。

[結語]膝窩動脈外膜囊腫の一例を経験した。主訴、ABIの結果からASOを疑い下肢動脈エコーを実施したが動脈硬化はなく否定的であった。しかし腫瘍性疾患の存在も念頭におくべきと思われる。

連絡先:0472-46-6001(内線:2280)